

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590800019		
法人名	医療法人 隆徳会		
事業所名	グループホーム あさひ		
所在地	宮崎県西都市旭町1丁目50番地		
自己評価作成日	令和4年9月15日	評価結果市町村受理日	令和4年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_topiigyosyo_index=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_topiigyosyo_index=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和4年10月14日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりが自分らしく、自宅での生活と変わらないように日常生活において得意なことや好みのことをレクや家事手伝い等で行ってもらい、生きがいを持って生活が送れるように支援しています。本人の身体状態の変化にも全職員で話し合い、日々のケアにも活かしています。古民家風の環境にて庭の植木や鳥、虫などで季節を感じる事ができ、四季の行事等では楽しく、食事食も楽しみが持てるように見た目や食材、味の工夫を行って、その時々の入居者の様子も写真をのせ家族へお便りで配信しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外出自粛や交流制限のあるコロナ禍で、利用者の得意な事や楽しみ事を引き出し、自立を支援し今までと変わらない暮らしを続ける取り組みや感染予防を行い、面会や地域資源等を利用して認知症ケアの環境とケアの質の向上を目指している医療法人が母体の事業所である。管理者、全職員で見直した理念「家庭的な雰囲気の中でその人らしい生活ができ、満足して過ごせるような支援」を心がけ、利用者や家族の信頼を築いている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員がすぐに目に付く場所に張り出し、理念に基づき、実践に努めている。家庭的な雰囲気の中で、その人らしい生活ができるように日々観察、支援を行っています。	管理者、全職員で理念を見直し、その人らしい生活ができ、日常を退屈しないような楽しみ方を支援し、理念の共有と実践につなげている。本年は、利用者の作品を商業施設に展示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々と交流がなかなか取れない状況ではあるが、感染対策を踏まえ、区長さんや民生委員の方から情報を得たり、地域の販売店や来訪される方々から情報を得ている。コロナ禍が収まり安心して地域の一員としてもっと交流の場を増やしていきたい。	事業所機能の地域への還元や人材教育の貢献はコロナ禍で対応できていないが、民生委員、地域包括センター、市役所から様々な情報収集や提供などの関係が途切れないように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所への入居相談や見学等に来訪された時は、パンフレットの活用や、出来る限り丁寧に分かりやすく、認知症の方への対応や支援の仕方の理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍になり、運営推進会議の開催が難しく、情報提供を2ヶ月に一度、郵送にて行っている状況ではあるが、電話にて情報交換、意見を参考にサービス向上に活かしている。	事業所の情報提供等を郵送にて行い、出された意見を、法人3ユニット内での勉強会で話し合い、困難事や改善策を早急に解決し、申し送りノートを活用して共有しサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や社会福祉協議会の担当者と必要に応じて密に話し合いアドバイスを頂くなどメールや電話などの情報交換ができ市町村との協体制度が築けるよう取り組んでいる。	市、社会福祉協議会の担当者と必要時に話し合い、メールや電話でも情報交換し、制度、地域の情報、資源活用の連携の相談を行っている。また、オンラインでの研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍で、なかなか研修会や勉強会に参加できないのが現状ではあるが、いままで全職員で学んだ事を忘れずに、未然に防げる様に日々の申し送りや口頭での確認を行い入居者様を守るケアに取り組んでいる。転倒や怪我の危険防止にセンサーマットを使用する事もある。	身体拘束委員会や勉強会を開催し、全職員が拘束の具体的な内容や行為、その弊害を理解し拘束のないケアに取り組んでいる。外出傾向の利用者には、職員が同行し、行動を制限しないケアの実践を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は、絶対にしてはならない。職員一人ひとりが心に余裕を持ち、入居者様と寄添うことを一番に考えた職場作りに励んでいる。言葉使いやケア時の対応で、小さい事も、職員が気付いたら、声掛け等をし合える環境を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と考えられる入居者様に活用できるよう準備ができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時から疑問や不安を十分に説明し個別でのケアのあり方や取り組み、ホームの仕組みなどを理解・納得された上で契約に繋げている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が自由に意見が言えるよう玄関に意見箱を設けている。また、訪問看護や他の事業所からの意見を聞き、サービスの向上に努めている。	いつでも面会できる体制を取り、急変時の対応は早急に行い受診し、日々の様子は手紙やあさひ便りで報告する等、意見、要望、提案を把握して的確な対応を行い、それらを共有してサービス向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見が自由に発言できるように申し送り等を見たり、職員間で話し合いの場を設け解決に導き、働く意欲や向上に努めている。	職員の気づきやアイデアを運営に取り入れ体操やゲームで楽しい時間を過ごし、回想法を導入し活性化に繋げている。介護技術を高めて利用者の安寧を支援し、チームケアも良好で働く意欲や向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実績や勤務状況を把握しシフトの希望や職場環境を考慮している。給与水準については総務部に知って貰える環境を整えている。また、各業務の担当を受け持ってもらうことで、責任ややりがい、向上心をもって働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍にて外部研修も中止になっているが、リモート研修を活かした取り組みを行い、技術や知識のスキルアップに繋がるような資料閲覧を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で同業者との交流は減ったが、法人内に3つのグループホームがあり、常に意見交換や交流する機会がある。コロナ禍以前は、グループホームブロックがありネットワークもさかんに行っていたが、残念ながら未だ開催されていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階から、本人や家族より不安な事や要望などを聞き、入居後も会話の機会を多く設け不安要素や要望を見つけられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時より、家族の困りごとや不安なことに耳を傾け、家族の思いを理解受け止め、意見や要望が気楽に言える関係づくりや十分に時間を設け対応出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人の様子、家族の意見を聞き取り何が必要かのカンファレンスを行い、安心してサービスができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者はみんなが家族という意識で支援を行っている。生活の中で本人が楽しいと思えることを提供し、職員と一緒に寄添うことでコミュニケーションが図れように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活歴や家族からの情報を参考にし、本人の立場に立ち、趣味や得意な事を日常生活で生かせるように一緒に寄添えるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との絆を大切にガラス越しではあるが素晴らしい時間になれるよう、心がけている。遠方の知人や家族には、ハガキや電話などで、お互いを大切に思える時間づくりのお手伝いに努めている。	家族の協力のもと、行きたい所への訪問支援で利用者の事業所での生活が保持されている。馴染みの人とは、写真や電話を利用して関係が途切れないように心がけ、いつでも面会ができる体制になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性もあり、その日の入居者の様子に目を配り、時に職員が間に入り入居者同士が楽しい時間が過ごせるように穏やかな生活ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了時、今後も困りごとや不安なことは相談に応じ支援出来るようお伝えしています。事業所外でお会いした際も周りに配慮を忘れずに、これまでの関係を打ち切らないように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者個人の思いや希望・意向等を本人や家族との会話から把握できるように努めている。本人本意の生活が送れるよう職員全員で話し合い、検討している。	思いや意向を否定せずに受容するように努めて寄り添い、困難な場合は、家族や関係者の情報をもとに本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や家族からの情報のもと、日常生活で把握し本人の活力を生み出せるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に基本情報から、入居前の生活環境の情報の把握に努めている。本人や家族からの聞き取り細やかな情報を取得し、支援に繋げるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時にはケアマネが中心になりカンファレンス等で情報収集を行い、分析して、現状に沿った介護計画が作成され職員は共有と評価、意見を行っている。	ケース記録からの情報や毎月の職員会議等のカンファレンスで心身の状態を把握し、本人、家族の意向を確認して介護計画を作成している。状態変化時は随時、計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活での実践や結果、気づきを正確に介護記録・業務日報にて職員全員で共有して、ケアの見直しや必要性を吟味し介護計画に活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に対応できるように努めている。コロナ禍で実現が困難であっても、他事業者と連絡を取り実現する方法を確認できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、自由に屋外での散歩や買い物も制限される中、訪問散髪や受診などの機会を設け、出来る限り、地域資源を活用できる環境づくりを心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望でのかかりつけ医の確認を行っている。急変時の対応、訪問看護など協力医療機関受診の同意を得て適切な受診が行えるよう支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。協力医の受診は職員が対応し、その他病院受診は家族同行の受診となっている。受診の時には、現状報告書を持参して普段の様子を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態の記入、身体状態の観察を行い、身体の異常や急変時には早期に医療機関と連携はできている。週1回の訪問看護との連携を取り、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入居者の情報が早急に提供できるようサマリーを準備している。コロナ禍で面会ができないが、病院のソーシャルワーカーとも常日頃から良い関係を築いている。本人や家族が安心して治療を受けられるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重症化、終末期の確認を行っているが、状態の変化により、その都度、家族等の意向や意見を聞き医療機関や訪問看護師からのアドバイスを受け出来る限りの支援を行っている。	現在、看護師がいない為、看取りは行っていない。コロナ禍で重度化や終末期の勉強会は行っていない。利用者の状態は、ケース記録や病院受診記録報告書や口頭で説明し情報共有を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は訪問看護師や医療機関と連携を取り、適切な行動がとれるよう、また全職員が把握出来るように、マニュアルを作成し職員の見える場所に張り出している。夜間時もオンコール体制で対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行い、地域の消防団や近隣の方・法人の要請などの整備も整っている。災害時の食料や水を貯蓄、避難経路の張り出し、個人情報のカードの作成も行っている。	火災、地震、水害のマニュアルを作成している。避難訓練は、隣のデイサービスと合同で年2回～3回計画をしていたが、台風や突発的なことから現在は実施していない。今年度中に実施予定である。非常食は3日間備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、不愉快にならない対応を心掛けている。排泄や入浴時のプライバシーを損なわないよう職員全員で共有している。	プライバシーの確保について、常日ごろからミーティングや気づいた時に注意し、話し合いを行っている。申し送りノートに記録し全職員で共有して取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向や希望を聞き、本人の意志決定できるように、服装の好み、環境づくり、日中の過ごし方など本人の思いや希望で過ごせるよう支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、入居者のペースに合わせながら、その人らしい生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や好みを尊重し、その日の天候や季節に合わせた洋服選びを行ってもらい、その中でアドバイスも交えながら支援している。定期的な訪問散髪も本人の意向を最優先しながら支援をおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季を味わえるよう四季折々の野菜や果物を実際に手にされたり、匂いや形なども交えながら皮むきや料理が可能なお方には実際に作る楽しさを提供している。年間の行事食など見て食べたいような感動も提供できるように工夫を行っている。	利用者に食べたいものを聞き、メニューに取り入れている。巻きずし、蕎麦、おせち、ちらし寿司など季節に合わせた料理を提供している。利用者は梅干し作り、お盆拭きと簡単な調理などできることを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量も記録にまとめ、本人の状況に合った食事量や食べやすい工夫を行い栄養管理にも最善を行っている。水分が中々取れない人にもゼリーにし、摂取量が確保できるよう配慮を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア及び義歯の洗浄・消毒を行い清潔保持に努めている。必要に応じ歯科受診や訪問歯科などの対応も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分の確保、牛乳やヨーグルトや食物繊維を多く含む食材の提供を行ったり、毎日の体操や歩行練習での機能訓練を行い便秘予防に努めている。	排泄チェック表を確認しながらトイレ誘導を行い、パットは使用せずはくパンツに変更したことで家族のおむつ代が減る。利用者の尿量や用途に合わせたおむつの検討を申し送りで行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の確保、食物繊維を多く含んだ食事の提供体操や歩行運動を活かした便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の定期的な入浴を提供し本人に合ったペースでゆっくりと安心して入浴できるよう支援を行っている。入浴拒否がある場合は時間をずらすなどの配慮を行っている。	車椅子の利用者も浴槽に入っている。毎年ゆず湯を行っている。入浴の時には回想法を行い、会話を楽しみながら入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も休息がとれるよう日光浴を兼ねソファを設置し自由に過ごしておられる。日中、傾眠が強い方は居室で仮眠の声掛けなどを行っている。日中の過ごし方や居室の工夫も行い安眠できるように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の処方薬説明書は本人ケースに綴り薬の目的、副作用、用途や用量は理解できている。定期的に再確認を行っている。飲み忘れや誤薬がないよう本人確認や職員同士で声だしチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることを把握し、日々の暮らしや楽しみや張り合いを本人が見つけられたり、アドバイスを交えながら支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍が中々治まらず外出の機会もめっきり減ってしまったが、施設内の中庭の草花や梅ちぎり・花壇に花を植えるなど、日光浴を兼ねたり工夫しながら支援している。	コロナ禍でドライブなど外出支援は行っていない。グループホーム内の庭を散歩したり、庭の梅をちぎりや庭の大きな石に座り、利用者がハーモニカで演奏し童謡など歌って出来る支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として事業所が管理している。ご本人が持っていないと不安に思われる方は現在はいなく、要望があれば、家族と相談し支援を行う。本人が欲しい物があれば購入させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の家族への電話希望が有る時は、家族の了解を得て、話しができる体制を職員共有の元、取り次いでいる。遠方の方からの手紙や贈り物が届いた時には本人に直接渡し本人に電話や手紙を郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南側廊下にソファを設置し気楽にくつろいだり、庭の植木や鳥や飛行機など見える楽しさを味わえるように心掛けている。集合場所(食堂)では、壁紙を利用し季節感を味わって貰えるように職員と入居者と共に作品を作り、派手過ぎず心地良い空間にしている。	木造作りで、広縁にソファが2つ置いてあり庭の木を眺めたり、ゆっくりくつろぐことが出来る。トイレは2か所車椅子でも介護が出来る広さである。家族宿泊室があり家族が泊まることが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時間に気の合う仲間同士が座れるソファを3箇所設置し自由にのんびりとくつろげるスペースを提供している。車椅子の方は、職員と一緒に過ごす時間を支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人家族と話し合い自宅で使い慣れた馴染みのある家具や大切な写真など持ち込める体制になっている。	テレビや家族の写真、箸、ブーケ、遺影など持ち込まれている。レクリエーションで作った作品を飾り個々の利用者が居心地よく過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分かるように目印をしたり居室の出入り口には、本人の名前を設置している。居室には本人が分かりやすい家具の設置や洋服もいつでも取り出せるような自立した生活が送れるように支援を行っておる。		